

令和5年度地域福祉ワークショップ実施報告

1. 目的

参加者同士の自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合うことで、地域住民の横のつながりを深めるとともに、住民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりを推進することを目的に、令和2年度より地域福祉ワークショップ（地域福祉懇談会）を開催している。

2. 過去のアンケート結果や地域福祉専門部会委員の意見などから見えてきた課題

ー令和4年度第2回地域福祉専門部会資料よりー

- (1) 多様な担い手の参加に向けた開催形態の工夫
- (2) 参加者がワークショップ参加後の行動を振り返り、その結果等を共有するフォローアップの実施
- (3) 興味・関心の高いテーマの設定

3. 令和5年度実施報告

(1) 多様な担い手の参加に向けた開催形態の工夫

「中学・高校生向け地域福祉ワークショップ～ボードゲームから考える！これからのまちづくり～」の開催

※第2回地域福祉専門部会（令和5年10月30日開催）で報告済み

(2) 参加者がワークショップ参加後の行動を振り返り、その結果等を共有するフォローアップの実施

「地域福祉ワークショップフォローアップ会」の開催

※第2回地域福祉専門部会（令和5年10月30日開催）で報告済み

(3) 興味・関心の高いテーマの設定

「地域福祉ワークショップ 地域コミュニティのこれからと地域活動について」の開催

ア. 趣旨

地域福祉ワークショップは、参加対象者を「地域活動者、地域活動に関心のある方」としているが、参加者の多くは「地域活動者」となっている。そこで、より多くの方にご参加いただくことを目的に、過去のワークショップでの意見等を踏まえ、興味・関心が高いと思われるテーマに基づく地域福祉ワークショップを開催した。

イ. 主催 中央区

ウ. 開催日 令和6年1月24日（水）18時30分～

エ. 会場 中央区役所8階大会議室

オ. 参加者 27名（定員：25名 申込者数：32名）

カ. 講師・ファシリテーター 駒澤大学文学部社会学科 教授 川上 富雄 先生

キ. 共催・サポーター 中央区社会福祉協議会

ク. 内容

- 講演『地域コミュニティのこれからと地域活動について』
 - ・地域社会の変化、中央区の変化、地域活動の意義について
 - ※講演のみ Youtube で動画配信を予定
- 報告『区内の地域活動拠点について』
 - ・勝どきダイルーム、多世代交流スペース「はまる一む」の活動報告
 - ・令和6年度開設予定の地域活動拠点について
- グループワーク
 - テーマ『地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用』
 - ・地域や地域活動の魅力・気になること、地域活動拠点の活用方法について、意見交換を行う。意見交換は5～6名のグループにわかれて行う。
- 全体共有（グループワークの結果を共有・講師総括）

ケ. 当日のタイムスケジュール

| | |
|--|---|
| 1. 開会・あいさつ (2分) | 事務局挨拶 |
| 2. オリエンテーション (3分) | ●プログラム説明 ●地域福祉ワークショップの目的について |
| 3. 講演 (30分) | 「中央区の地域福祉を考える」 ●講師：駒澤大学文学部教授 川上 富雄 氏 |
| 4. 報告 (10分) | 「区内の地域活動拠点について」 ●報告：中央区社会福祉協議会・事務局 |
| 5. グループワーク (70分) ①説明 (5分) ②話し合い (40分) ③発表 (15分) ④総括 (10分) | 「地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用」をテーマに、グループで話し合いを行う。 ●ファシリテーター： 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏 ●サポーター： 中央区社会福祉協議会 職員 ①テーマに沿って話し合う。 ②グループで話し合った結果を発表する。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイスをいただく。 |
| 6. おわりに (5分) | 事務局挨拶 |
| 7. 閉会 | 閉会 |

コ. グループワークの進め方

各グループに5名から6名の参加者と、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員または区職員を配置し、意見交換・集約を行った。

- ① 自己紹介をする。
- ② 「司会」役と「発表」役を決める。
- ③ テーマ「地域活動のあり方と地域活動拠点の利活用」について意見交換を行う。
- ④ 意見交換の要旨を各グループの発表役（代表）が報告する。
- ⑤ ファシリテーターからコメント・アドバイスをいただく。

サ. グループワークの結果

1 グループ

「行政だけに任せない！自分たちで地域活動拠点を作っていく」

- 地域の魅力
 - おしゃれなビールの飲めるカフェ、様々な人が集まれる場所がある。地域の事を教えてくれる方も大勢いる。
- 地域と関わるきっかけ
 - 参加できる行事が多い。地域の盆踊り、防災訓練等への参加を通してつながることができる。
 - 様々な方とのつながりを通し、情報を共有することが大切である。
 - こどもたちに「おせっかい」を焼く。小さい時は嫌かもしれないが、大人になった時「地域の人に育ててもらってよかった」と思うようになる。人と人とのつながりは、大人になってからも生きていく。
- 地域活動拠点について
 - 地域活動拠点は現在2か所しかない。もうすぐ3か所目ができるが、みんなが集えるような場所が地域にもっと増えると良い。
 - 行政にも頑張ってもらいたいが、私たちもそうした場所が増えるように、自宅の庭先や玄関先などを活用して、そこが拠点となるような地域活動を続けたい。

2 グループ

「地域活動を通し、子どもたちの“ふるさと”を作っていく」

- 地域の特徴・気になること
 - 人口が増え、子育て世帯やマンション住民、外国人が増加している。
 - 町内会の高齢化・担い手不足の問題。
 - 色々な取組が地域にはあるが認知度が低く、必要な人に情報を届けることができているのか？という疑問もある。情報が届いていないことで、子育て世帯や一人暮らし高齢者は孤立していないか。災害時に対応できるのか。
- 地域でやってみたいこと
 - 現在行っている活動を、更に地域に広めていきたい。
 - 地域活動を通し、子どもたちの“ふるさと”を作ってあげたい。子どもたちが大きくなり、一度地域を離れたとしても、いつか大きくなってから地域に戻ってこれるような付き合いがある環境を整えたい。

3 グループ

「情報発信のスタイルは様々であり、大切なのは目的を失わないこと」

- 地域の課題
 - 様々な意見が出ていたが、ほとんどが孤立に関するものだった。
 - 一人暮らし高齢者だけでなく、マンションの中でも隣の住民がわからない状況で、災害発生時にはどのように対応すれば良いのか。
- 地域の魅力
 - 高齢者通いの場など、定期的に集まれる場づくりが大切である。
 - 中央区はコンテンツが豊富で魅力で溢れているまちである。
- 今後の地域づくりに向けて
 - 様々なコンテンツが存在しているが、それらを使いこなせている人は少ないのではないか。スマートフォンも、ただ持っているだけの人がいる一方、使いこなしている人もいて、そのスキルに格差が生じている。
 - スマートフォンに依存するのも良くなく、情報を伝えるための一つのツールとして、その目的を見失わないようにしないといけない。アナログからデジタルまで様々な手段を活用し、情報が広く伝わるのが理想である。
 - 地域の小さな商店が、地域の集いの場になると良い。

4 グループ

「多様な顔を持つ地域だからこそ生じる課題に対応していく！」

- 主なトピックス
 - 中央区の素敵なところ、町会・自治会の運営について、情報収集について、地域でやってみたいこと、防災に関する5つのトピックスについて話し合った。
 - 盛り上がったのは、町会・自治会の運営と情報収集についてだった。
- 町会・自治会の運営について
 - マンション住民と一軒家の住民とでは、考え方が異なる。
 - 自治会に加入しているマンションもあれば、未加入のマンションもある。未加入のマンションには、地域の情報がなかなか入らない。情報はあるはずなのになぜ入らないのかと思うが、自治会に加入しているマンション住民側からしたら、自治会に入れば情報は入るのになぜ入らないのかとってしまう。
 - 相互に考え方が異なるが、多様性ゆえに生じる課題なのだと思う。これをいかに解消するかが重要だが、そこまでの議論には至らなかった。
- 情報発信について
 - 情報は地域にあふれているが、世代により情報の受け取り方は異なる。どこが情報発信を担い、誰をターゲットにするのかを絞らないと、必要な情報は届けられない。情報発信の仕組みづくりを整備する必要がある。

5 グループ

「地域活動の魅力は、コミュニティを動かすこと」

- 地域の魅力
 - 伝統、祭り、公園がたくさんある。
- 地域で気になること
 - マンションが増えた。日中人がいないエリアもある。
 - 独居の方が増えた。
 - 地域活動を行う際、誰が責任を持つのか。
- 地域活動に参加したきっかけ
 - 自分の地域を良くしたいという思いが強かった。
 - 生まれも育ちも中央区という方だけでなく、後から嫁いできた方、在勤者など、様々な立場の方が好きになる地域であり、魅力で溢れている。
- 地域でやりたいこと・自分にできること
 - 人と話がしたい。対象や年齢を制限しない場が必要なので、増えることが理想だし、自分たちでも作れると良い。
- 地域活動の魅力
 - 地域活動の魅力は、コミュニティを動かすこと。これからも積極的にコミュニティを動かしていきたい。

シ. 講師講評

○地域から孤立している方のアプローチ

地域には孤立しがちな方がいる。中央区のような都会だと、マンションの中にもそうした方がいるだろう。本人が自ら近所付き合いをしたり、SOSを発信することは難しく、我々がいかに気づき、関係を作っていくのかを考える必要がある。

○増加するマンションへの対応

中央区は9割の方が集合住宅で生活している。比較的新しいマンションでもSNSを活用してつながるマンションもあれば、無縁社会状態のマンションもある。つながりのあるマンションコミュニティを目指し、いかにして働きかけるのか考えなければならない。

○テーマ別のつながりを増やす

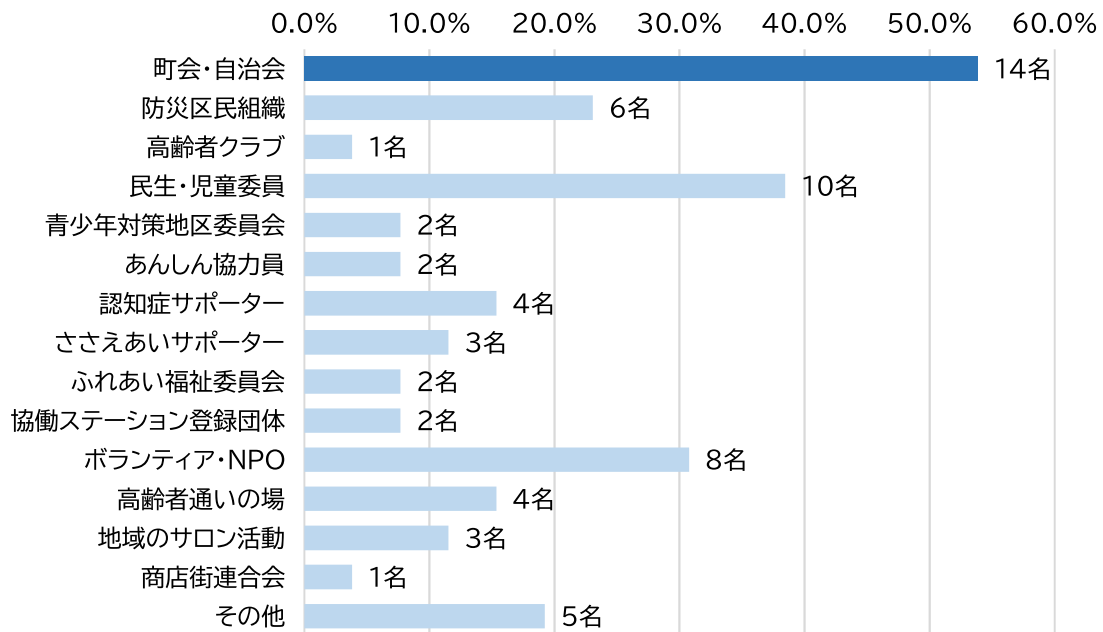
ペットなど、地縁ではなくテーマ別でつながるグループがあってもよいだろう。ペットを飼っている方々が集まり災害発生時の事を話す場を作るなど、様々なテーマで集まれる場が増えると良い。

○“ふるさと”とじてもらえる地域を目指す

子どもたちに、中央区が“ふるさと”だとじてもらえる地域を、大人がつくっていく。どのような中央区であれば“ふるさと”だとじてもらえるのか、ぜひこうした場で継続的に話し合っ欲しい。

ス. アンケート結果 (回答者数 26名)

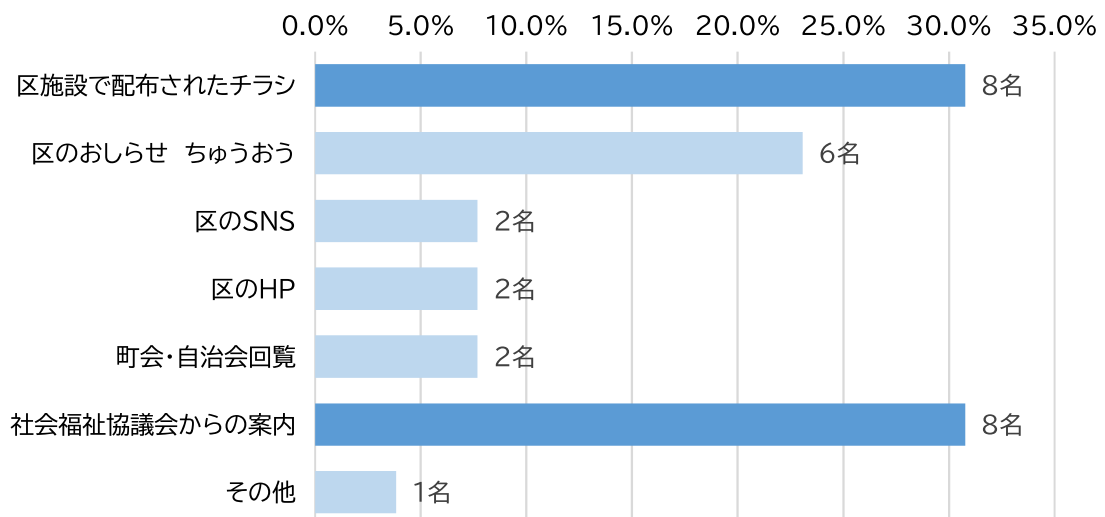
問1 どのような地域活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)



<その他の回答>

はまる一むの活動に参加、区災害時医療救護活動従事スタッフ薬剤師、区議会議員

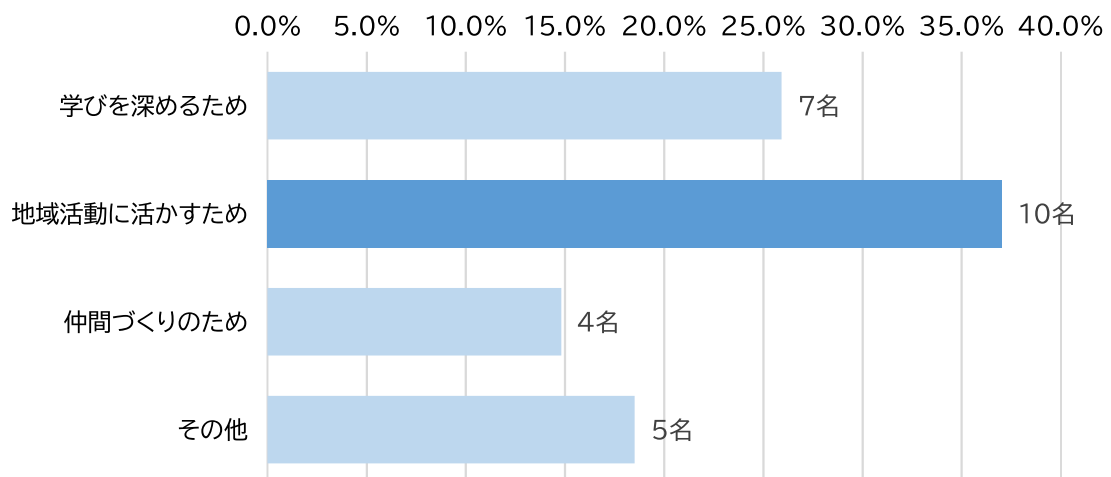
問2 今回のワークショップを何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)



<その他の回答>

参加者から誘われた

問3 今回のワークショップに参加した理由を教えてください。



<回答の詳細>

○学びを深めるため

- ・ 講師の講義を聴きたかった。
- ・ 地域の課題を共に考えたかった。
- ・ 福祉と防災を考えたかった。
- ・ 中央区の事を知るために参加しました。
- ・ 地域の問題点を知りたい。
- ・ とにかく勉強。
- ・ 地域コミュニティ（中央区）について興味があったため。

○地域活動に活かすため

- ・ サロン活動をしたい。（食事含む）
- ・ 町会活動に活用したかったから。
- ・ 町会に入ったことで、地域の活動に興味を持ったため。
- ・ 地域活動への興味。
- ・ 中央区役所の地下1階に開設されるツキチカで、紅茶を楽しむ会（毎月1回違う種類の紅茶を楽しむ会）を開催してほしいと伝えるため。
- ・ 地域からボランティアがはじまる！！ので。
- ・ 中央区にスマホ支援のグループを立ち上げたいと思い、そのきっかけになる情報を収集するため。
- ・ 町会活動への中心となっている方が非住民、高齢者のため、町会員の皆さんへの発信ができていない。解決への糸口になるようなアイデアや成功事例等をご教示いただきたく参加しました。
- ・ 現実問題として地域コミュニティを持続可能な形で活かしていくためにどうすれば良いかのヒントを得るため。
- ・ 障害者の居場所づくりをしたい。

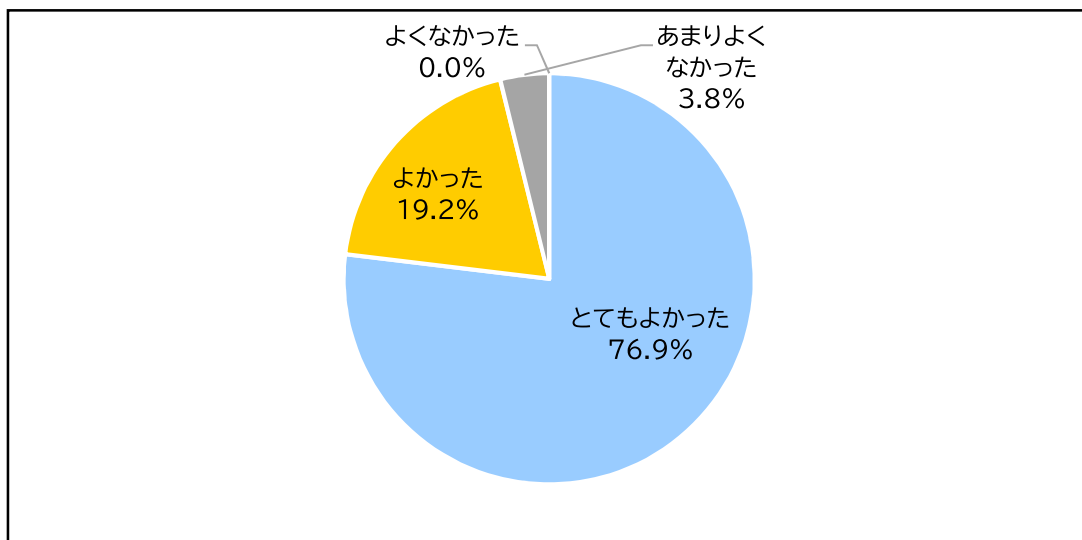
○地域で共に活動する仲間づくりのため

- 地域の新しい人たちの出会いを求めて。
- 中央区住民同士もっともっと楽しく仲良くなれるように。
- 子ども、大人、全て仲間となれるように…。
- 色々な立場の方との話ができるので。有意義な会合でした。

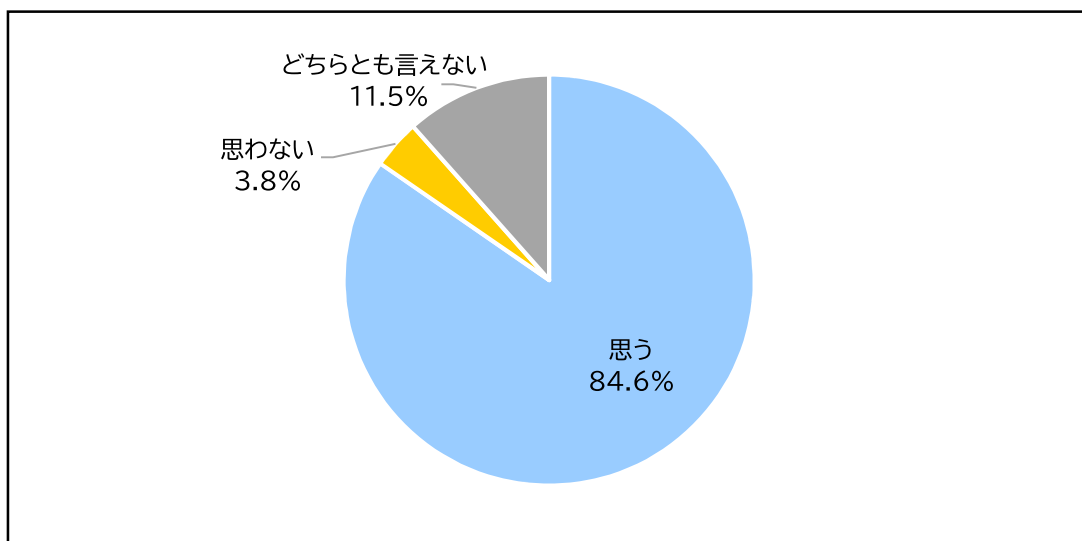
○その他

- 他の人の意見が聞きたかった。
- 前回は参加したので、今回も来ました。
- 中央区の町にお世話になったので、いつか私も役に立つ日が来るように。
- 断る理由を探せなかった。
- 町会役員、民生委員として。

問4 今回のワークショップに参加していかがでしたか。(1つに○)



問5 今回のワークショップは、今後の地域活動に活かせると思いますか。(1つに○)



問6 問5の回答についてお伺いします。その回答理由についてお聞かせください。

○多様な意見を聞くことができた

- ・ 防災訓練が近々あるので少しでも町会の人々と考えを共有したい！
- ・ 様々な意見を聞いた。
- ・ 参加メンバーが素晴らしかった。
- ・ ワークショップで地元を知ることが大切！
- ・ みんなが考えていることは同じだと思った。
- ・ グループでの活発な意見交換では、自分が知らなかった、気づかなかった視点を
得ることができ、多様な世代からの意見はとても大切だと感じた。
- ・ 共感！を増やしたい…と思っている方々ばかりだと思う。医療ボランティアの
方は実際に区在住者ではない方が多く、災害時のことも絡めてコミュニティ活
動において、こうした会があると伝えて行けたら良いと思う。
- ・ 普段から地域に貢献されている方々と同じグループなので、話を伺ってとても
励みになりました。町会では一人で頑張っている感じなので、ポジティブ思考
のコミュニケーション力のある皆様とご一緒できて良い時間となりました。
- ・ グループ内で様々な立場で活動されている方の話を伺えたので。
- ・ この中の話をみんなが他の住人に話せば広がりますね！
- ・ 行政による制度政策も良いですが、実際に住民もしくは関わりのある人々の意
見として取り入れることで、反映につながると思います。
- ・ みんなの意見からシンプルに問題点が浮かび上がった。
- ・ 地域のことを本気で考えている方々が多く集まっているから。
- ・ 多くの人の考えを共有することができた。

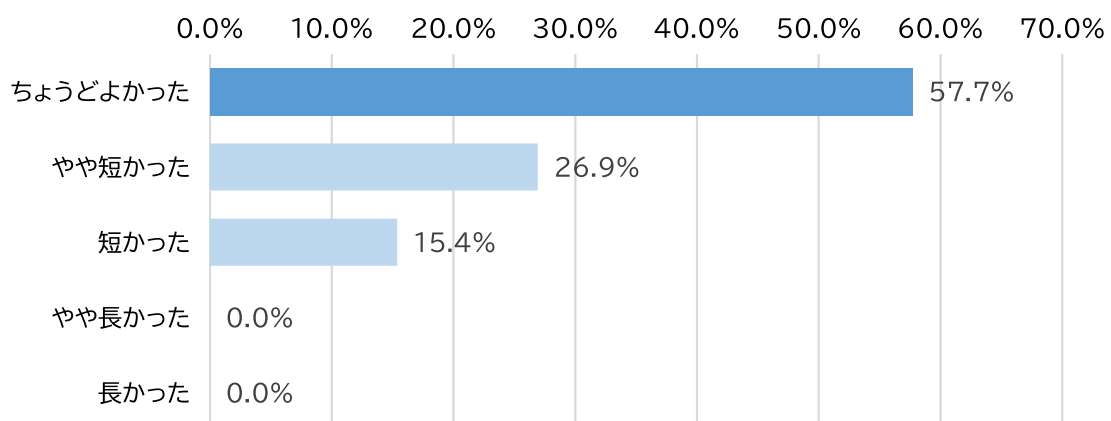
○様々な課題を知ることができた

- ・ 実現につなげていく課題があると思う。
- ・ いずれも地域、町会、情報、問題点があることを知った。

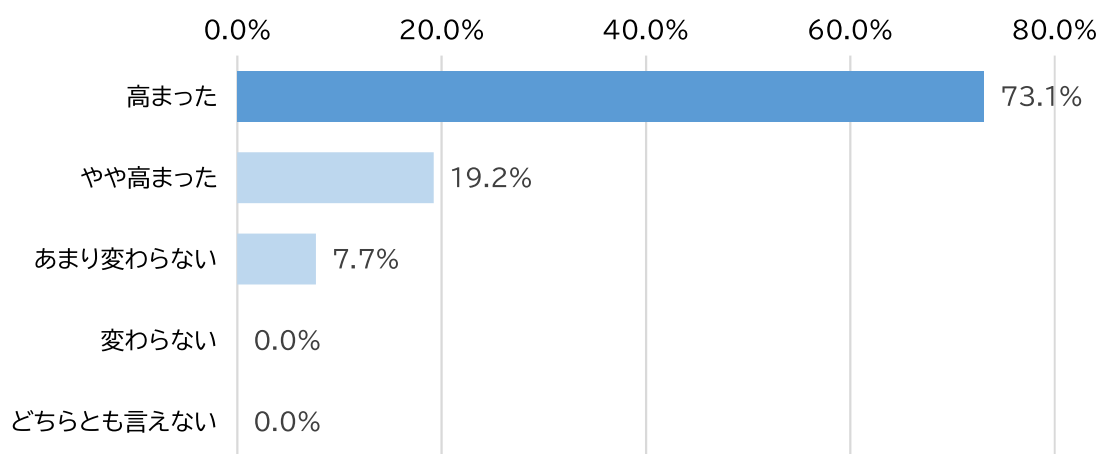
○その他

- ・ 求めていたものと方向性が違っていた。
- ・ 色々な人がいるのでどう転がるか。

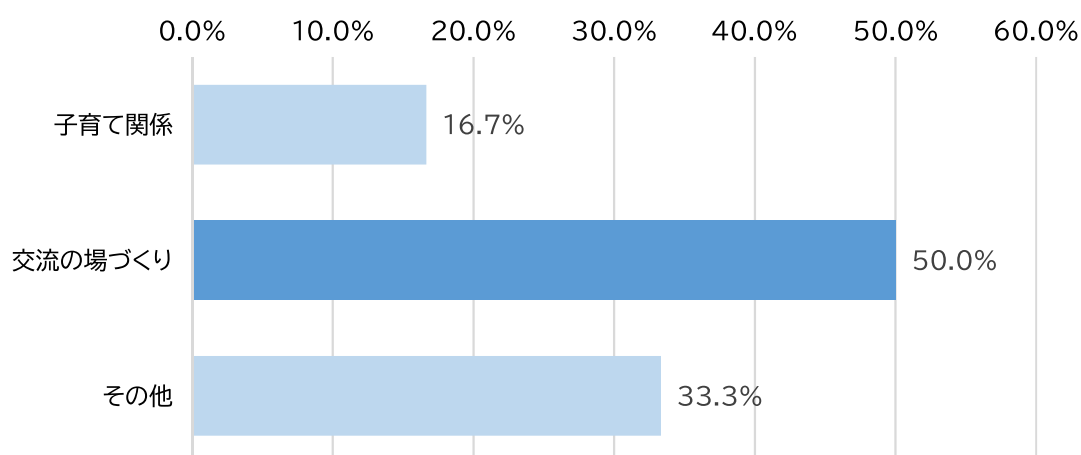
問7 ワークショップの話し合いの時間（長さ）はいかがでしたか。（1つに○）。



問8 ワークショップに参加して地域福祉に対する関心は高まりましたか。(1つに○)



問9 今後ワークショップで話したい内容、興味のあるテーマがありましたらお書きください。



<回答の詳細>

○子ども関係

- 子育て支援について。
- 子どもの意見表明。

○交流の場づくり

- 定期的集える場、無縁社会の防止について。
- 新しい住民とのコミュニケーション方法（定期的に参加したい）。
- 地域によって話したいテーマは異なると思う。晴海の場合は、高層住宅での孤独防止、話し相手など。
- 通いの場等を開催できる場の作り方。
- より具体的なコミュニティの成功事例と要因について。
- 皆さんの活動を知りたいです。

○その他

- 町会の情報発信のやり方を考える。世代によって異なる情報発信の方法。
- 災害時に特化した地域福祉ワークショップ。
- 福祉専門職の皆さんと区民との接点を多く持つ内容。

問 10 本日のワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

- 続けることの大切さ、「意識の高い人」の存在を知った。
- 同じグループに入った方は、みんな意識が高く大変勉強になりました。最後に講師がコメントされていた「ペットコミュニティ」が心に残りました。
- もっと他自治体（都市部、中山間地域）での成功事例について話を聞きたい。講師の資料が非常に役立った。
- とても勉強になり、参加してよかったです。ありがとうございました。
- 中央区、地元を良くしたい。中央区は便利なまちが良い。
- 中央区を「ふるさと」と言える子どもたちを育てたい、というのは同感です。
- 具体的に細かいテーマで集まるのもいいな、と思います。色々と同じようによくしたい！！と考えている方々がたくさんいらして良かったです。
- テーマをもっと明確にして話し合いたい。ワークショップをただ話す場だけではなく、結論（とまでは行かなくても“まとめ”）が出したい。
- 初参加でしたので、うまく考えをまとめきれませんでした。今回のワークショップを機に日頃から地域コミュニティについて考えるようにしたいと思いました。
- 人々の集まる場所作りに参画できるよう頑張ります。来年は一つでも活動報告ができるようにしたいです。
- 貴重な機会をありがとうございました。
- 楽しいグループに入れていただき、ありがとうございました。
- また参加を希望します。
- 地域について考えている方が多いと感じました。新たなコミュニティが、新しい方々も加わり盛り上がることを期待しています。個別避難計画の作成の進みますように。
- 自己紹介をもっとくだいて行えると良い。
- 楽しかったです。町会の方々の年齢が高く、古い考えが残っていて困難なことがある。町会費の用途が不透明。マンション居住者の顔が見えない。ひきこもりの方がどのくらいいるのかわからない。

セ. 当日の様子 (参考)



講演「地域コミュニティのこれからと地域活動について」



講演(全体の様子)



グループワークの様子(1グループ)



グループワークの様子(2グループ)



グループワークの様子(3グループ)



グループワークの様子(4グループ)



グループワークの様子(5グループ)



発表(1グループ)



発表(2グループ)



発表(3グループ)



発表(4グループ)



発表(5グループ)



講師講評



模造紙(1グループ)



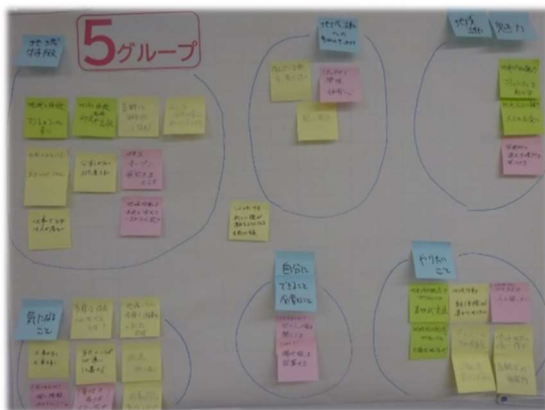
模造紙(2グループ)



模造紙(3グループ)



模造紙(4グループ)



模造紙(5グループ)

4. 今後の方向性

(1) アンケート結果を踏まえたワークショップの実施

終了後に行ったアンケート調査からは、グループワークの時間について「短い」「やや短い」との回答が一定数寄せられたほか、「参加者の話や実際の活動に関する話を聞きたい」「テーマを細分化したらどうか」等の意見をいただいた。これらの意見を参考に、参加者のニーズに沿ったワークショップの内容を検討する。

(2) 身近な地域を単位とした協議の場づくり

令和5年10月に開催したフォローアップ会では、地域づくりに高い興味関心を持つ16名の参加者にご参加いただいた。

令和6年度以降は、これらのフォローアップ会参加者をはじめ、多岐に渡る地域活動の担い手、地域住民等に声をかけ、より身近な地域を単位とした協議の場づくりを社会福祉協議会が中心となり行う予定である。